

全校研究／国語・社会・総合的な学習の時間

新聞を身近に感じられるように（児童）・新聞を授業の教材としていけるように（職員）

指定校 2 年次 飯山市立飯山小学校 白石 裕順

（１）本年度の NIE 活動の概要

本校では、子どもたちにとって新聞が、「おもしろいなあ」「役に立つなあ」と今よりも身近なものとして感じられるようになること、また職員にとって、見方が広まり、考え方が深まっていくような授業展開のために新聞を活用することをねらいとして取り組んできた。1 年目の研究の中から見えてきた、新聞記事を読むことに難しさのある低学年は、新聞の写真に注目した「新聞に親しむ活動」、社会科が始まり見方が広まっていく中学年は、社会見学や調査活動でわかったこと、考えたことをまとめる「新聞を作る活動」、高学年は授業の中で記事をもとに考えていく「新聞を活用する活動」を中心として実践をしてきた。

低学年は広げた新聞を見て、興味関心を持った写真を切り抜き、「お気に入りの写真ブック」を作成する中で、いろいろな写真が載っていることに気づき、友だちと見せ合ったり、選んだ記事を紹介し合ったりすることを通して、新聞の写真選びのおもしろさを感じることができた。中学年は新聞を作る中で、短い言葉で内容を示す見出しの書き方、文章の書き方など、学習したことのおさらいとして、相手にわかりやすく伝えるための大切なポイントについて考えることができた。高学年は、ALT の先生に紹介するため、日本文化に関する記事を探る中で、見つけた記事や日本文化の良さを友だちと発表しあったり、考えあったりすることを通して、新聞記事で日本文化についての興味や関心を広げたり深めたりすることができた。

（２）本年度の NIE 活動の取り組み状況（４月時点）

本校は全校児童 263 人、14 学級（うち特別支援学級 3）である。1 年次同様、研究はグループを立ち上げて一部の職員で行うのではなく、全職員が NIE について考える場をもてるよう、連学年会で新聞を扱う授業について検討していく体制とした。昨年度からの職員は NIE の授業イメージが持っていたが、本年度の新任職員は NIE と聞いて、何をどうするのか戸惑う様子もあったので、1 学期は教頭が NIE の授業を公開した。また、児童がいつでも新聞に触れることができるように児童昇降口に新聞閲覧台を継続して置いたり、児童がふるさと飯山について関心を持てるように飯山に関連した記事を切り取り、ラミネートして掲示したりした。

（３）NIE 活動の願い（育てたい力）

①【児童】新聞を身近に感じられるようになってほしい。

低学年・・・「新聞っておもしろいなあ」

- ・家にあっても広げることの少ない新聞を学校の授業の中で、写真に注目して取り上げることで、新聞には自分の目で見たとことのないような写真（全国の様子や海外の様子）や、季節に合わせた自然や行事、自分たちと同じ小学生の姿など、多くの写真が載っているということに気づき、そのおもしろさを感じてほしい。
- ・選んだ記事を友だちに紹介したり、選んだ理由を伝えたりすることで、いろいろな見方があることを知ってほしい。また、それぞれの見方を認められるようになってほしい。

中学年・・・「新聞にまとめるって楽しいなあ」

- ・体験したこと、調査したことをもとに学習のまとめとして新聞制作をする中で、相手にわかりやすく伝えていくために、見出しの言葉を考えたりや記事の内容を書いたりして行ってほしい。

高学年・・・「新聞をもとにすると考えが広まったり深まったりするなあ」

- ・新聞記事を読んで、「やっぱりそうなんだ」と自分の考えに納得したり、「そういう考えもあるのか」「そんなことがあるのか」と新たな考え方の視点を得たりすることで、より広い視野からものごとを見つめられるようになってほしい。

②【職員】新聞を授業の教材としていけるようになってほしい。

最新の情報が取り上げられている新聞を教材として扱うことで、見方が広まり、考え方が深まっていくような授業展開を考えていく一つの手立てにしてほしい。

(4) 全校での取り組み

児童昇降口前に新聞コーナーを設け、新聞を自由に閲覧できるようにしている。その際、児童に読んでほしい、見てほしい記事のページを開き、「注目！」と書いた付箋を貼るようにしている。また、「飯山」に関する記事は切り抜き、ラミネートして新聞コーナー壁面に掲示するようにしている。



(5) 公開授業などの活動内容

①低学年（2学年）

◇ 単元名「お気に入りの写真を紹介しよう」

◇ 本時案

ア 主眼

スクラップブックを発表し合った子どもたちが、さらに自分の興味・関心がある写真を見つけてスクラップブックを作成していく場面で、選んだ写真の理由を書いたり、友だちに紹介したりすることができる。

イ 指導上の留意点

- ・全体で紹介するときは、紹介者のページをテレビに映してみんなが見られるようにする。

ウ 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	○指導・支援上の留意点 ◇評価	時間
導入	1. 前回の自分のスクラップブックのページを振り返る。 2. 本時のめあてを確認する。	・前は、スポーツの写真を選んだよ。頑張っている姿がかっこよかった。	・前回の自分のスクラップブックの振り返り、どんな写真を選んだのか共有すると共に意欲を高める。	5
	スクラップブックの新しいページを作ろう。	・どんな写真があるかな。 ・今日も好きな写真が見つかるといいな。 ・今回もスポーツの写真を見つけたいな。	・作り方の手順を確認する。 (手順表)	3

展 開	3. 新しいページを作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・どの写真にしようかな。 ・この動物何か言ってそう。想像して考えてみよう。 ・いろんな新聞記事を見てみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お気に入りの写真を見つけられるように様々な新聞を用意しておく。 ・選んだ理由を書けずにいる子どもには、対話しながら理由を言語化できるようにする。 ・写真から気付いたことなどもっと書きたい場合は、空いている場所に書き込んでも良いことを伝える。 	22 12
	4. 完成したページを紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> ・私がこの写真を選んだ理由は、私もペットを飼っていて、似ているなあと思ったからです。□□な表情が癒されて好きです。 ・かわいい写真だなあ。○○さんはそういう理由でこの写真を選んだんだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・完成したページをグループごとに紹介し合う。 ・代表で紹介する子のページをモニターで映し、全体で見られるようにする。 	
終 末	5. 本時の活動をふりかえる。次時の学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・次は、○○さんみたいに面白い写真を見つけてみようかな。 ・作るのが楽しかった。 ・もっとページを増やしたい。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇自分の好きなことや興味・関心のあることの写真を選んで貼り、選んだ理由を書いて、友だちに紹介することができた。 (行動観察・スクラップブック)</p> </div>	3

②中学年（4学年）

◇ 単元名「自然災害からくらしを守る」

◇ 本時案

ア 主眼

飯山市の自然災害に対する対策を知った子どもたちが、おうちの人や地域の方にその対策を伝えるために新聞づくりを行う場面で、市役所の方に聞いた話や授業で学習した中で大切だと思うことを2つ選び、教科書や資料、メモをもとに必要な情報を調べて構成シートにまとめることを通して、災害にあった時におうちの方や地域の方が自分で行動できるような内容の新聞を作ることができる。

イ 指導上の留意点

- ・新聞づくりの見通しが持てるよう、構成シートを使う。

ウ 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	○指導・支援上の留意点 ◇評価	時間
導 入	1. 前時の振り返りと本時の活動の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・前は災害時に大切だと思うことを構成シートに書いたよ。 ・お家の人には知らないよな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動の見通しがもてるように、前回の活動の確認をする。 	8
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>飯山市の自然災害に対する取り組みをおうちの人に紹介する新聞を作ろう</p> </div> 2. 新聞の作り方について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に新聞づくりについて教えてもらったね。構成シートに書いたことを繋げていくと新聞づくりがやりやすかったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞づくりのやり方を思い出せるように、1学期に作った新聞を電子黒板に示す。 	

展開	構成シートをもとにして具体的な文章を作ろう		32
	3. 新聞づくりをする。 4. 友だちのアドバイスをもとに新聞の修正をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・心に残ったことを1、2の順番に書いていくんだね。 ・構成シートの情報だけじゃ足りないからメモを読み返そう。 ・言葉だけだと伝わりにくいからこの写真を入れたいな。 ・つなぎ言葉にも気をつけたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞づくりがスムーズにいくように構成シートを参考にすることを声かけする。 ・抽象的な文章にならないように教科書や資料、メモを見返すよう声かけをする。 <p>○友のアドバイスをもとに、新聞の修正をするよう促す。</p>
終末	5. 次回の課題や活動の見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・おうちの人がかっと知らない対策のことを書いたから驚くかもしれないな。 ・この新聞の内容が災害時に役立つかもしれないな。 	<p>○次時の課題をもつことができるように、振り返りの時間を設ける。</p> <p>◇評価: 災害にあった時におうちの方や地域の方が自分で行動できるような記事を仕上げるができる。</p>

③高学年（6学年）

◇ 単元名「ノア先生に紹介したい、私たちの身の回りの日本文化」

◇ 本時案

ア 主眼

日本文化に関わる新聞記事を探している子どもたちが、見つけた記事から要点を読み取り自分の考えや感想を学習カードにまとめる場面で、ノア先生に紹介したいことを考えたり、新聞から見つけた記事や日本文化の良さを友だちと考えあったりすることを通して、日本文化についての興味や関心を広げたり深めたりすることができる。

イ 指導上の留意点

- ・リード文を中心に5W1Hを読み取り、ポイントとなる文章に線を引くことで、記事の内容を把握できるようにする。
- ・友だちと、記事や学習カードを読み合い、付せんに気づいたことを書き合うことで、日本文化の良さを共有したり新たに発見したりできるようにする。
- ・新聞紙面全体から、必要な記事や情報を得ることに慣れていない児童が多いため、あらかじめ教師が提示する記事を選ぶようにする。
- ・「地域」の紙面から記事を探すことで、長野県内の出来事など身近な日本文化に関わる取り組みについて調べる。

ウ 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	○指導・支援 ◇評価	時間
導入	1. 本時の学習問題を確認し、見通しをもつ。 新聞にのっている日本文化に関わる取り組みについて情報を読み取り、自分の考えやノア先生に紹介したいことをまとめよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・前回と同じように探した記事を学習カードにまとめるんだな。 ・みんなはどんな記事を探したんだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードの用意をさせる。 ・記事を見つけられない児童には、教師が用意した記事の切り抜きを紹介する。 	10
展開	2. 記事から読み取った内容やそこから考えたことを、学習カードに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「いつ、だれが、どこで、なにをした」かを、探して線を引くんだったな。 ・記事の写真も、ノア先生に気に入ってもらえるかもしれないな。 ・イベントに参加した人のコメントが載 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共事業に限らず、民間の取り組みの記事も紹介する。 ・記事の読み取りが十分にできるように、あま 	

	<p>3. 友だちと学習カードを読み合い、感じたことやよいと思ったことを付せんに書いて学習カードにはる。</p>	<p>っているな。参加者はこんな気持ちなのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノア先生は日本の書道に興味があるって言っていたから、書道パフォーマンスを教えてあげたいな。この記事がぴったりだ。 ・Aさんは記事の内容を細かく読み取っていてすごいな。リード文以外にもたくさん情報が書いてあるんだな。 ・Bさんの食事に関する記事はおもしろいな。ノア先生にも和食を知ってもらいたいな。 ・書道のイベントがあったのか。Cさんは参加者のコメントから、書道の楽しさについてノア先生に紹介したいんだな。 ・世の中ではいろいろな人が、日本文化を守ったり広めたりするいろいろな取り組みをしているんだな。 	<p>り多くの記事を配布しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事から気づいたことや考えたことを、ロイロノートのカードに書く。 ・ノア先生に紹介したいこと、友だちの良いきづきや発見、友だちの感想の良いところなど、友だちと読み合ったり付せんに書いたりすることの視点を示す。 ・付箋を配付する。 	30
終末	<p>4. 本時のふりかえりを学習カードに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞からいろいろなことが分かって楽しく取り組めた。 ・いろいろな記事を読んで、新しい発見がたくさんあったので、もっと新聞を読みたい。 ・友だちの意見を聞いて、ノア先生に教えた文化が増えて良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞から読み取れたことや、考えたこと、ノア先生に紹介したいことについてふり返るよう伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇新聞記事や日本文化について興味をもち、進んで知ろうとする中で、考えを広げたり深めたりしている。</p> </div>	5

(6) 児童の反応

①低学年(2学年)

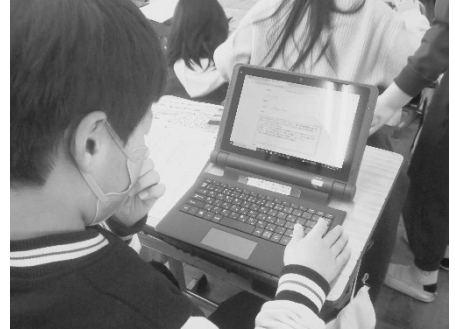
- ・導入で前時のスクラップブックの児童の紹介を3名ほど行った。友だちがどんな写真を選んだのか興味をもち「今日も野球あればいいな」など見通しを持つ姿が見られた。(紹介したR児のページ:『ドローン参入多角展開の写真』『未来もこのようなものを作って、人ものれるドローンを作れるのかな。作ってみたいな。町を守るドローンかな。田んぼに水やりをするのかな。』)選んだ写真に対する紹介の書き方については、R児のページをもとに確認することで、全体共有することができた。
- ・スクラップブックの作成は4回目だったこともあり、学校で用意した新聞以外にも、スクラップしたい写真を家から持参して持ってくる児童もいた。意欲的な活動の姿が出てきていることが感じられた。
- ・Y児は、自分のスクラップしたい写真が見つからずにいたが、最後は自分の住んでいる『飯山』という文字を見つけて『モルックで飯山を元気に』という見出しの写真を選んだ。Y児は、その写真からモルックという競技に興味をもち、教師にどのようなスポーツか聞き、ネットで調べた。そして、終末の全体での紹介で挙手をし、友達に自分のページを紹介した。「モルックっていうスポーツがあるなんてしらなかったです。10さいから50さいになるまでできるなんてしらなかったです。ボーリングみたいですよ。」とはっきり話すことができた。



- ・時間が余った児童は、もう一枚写真を見つけ、ページの空いている所に貼ったり、次に新しいページを作ったりして意欲的に取り組んでいる姿が見られた。子どもたちにとって、新聞の写真選びは楽しい活動になっているようであった。
- ・紹介は4、5名ずつのグループを作り、写真を見せながら紹介文を読んだ。それを聞いた児童は質問をしたり、自分の思ったことを伝えたりすることができた。

② 中学年（4 学年）

- ・今回の新聞づくりは、「自分たちの作った新聞を読んだ家族や地域の方が、災害が起きたときに避難のための行動ができるように」という目的で行った。飯山市の危機管理防災課の方に学校に来ていただき子どもたちは飯山市が行っている防災の取り組みを聞いた。その時に取ったメモをもとに構成シートを書いた。構成シートを見直す場面では、『『すごかった』『驚いた』という感想だけでは、読んだ人が避難のための行動ができない』となり、感想だけでなく行動につながるかどうかという視点をもって書き直すことができた。その後は修正した構成シートをもとに新聞制作アプリ「ことまど」を使って新聞づくりを行った。



【児童の振り返りから】

- ・今日はあまり進まなかったけど、家族や地域の方のことを考えながら新聞づくりができた。
- ・ハザードマップの詳細を書いたから、この記事は読んだ人のためになると思う。
- ・私の新聞を見たお母さんから「非常食をそろえよう。」と言われた。少し役に立ちそうだった。
- ・家族や地域の方に何かあった時に行動できるような新聞を書きたい。
- ・今の内容では、読んだ人が行動できるというところまではいってないので、次はもっとそこを意識して新聞づくりをしたい。
- ・4年生になってから今回で3回目の新聞づくりに取り組んでいる、1回目は、信毎の方に出前講座を行っていただきとてもスムーズに新聞を作り上げることができた。2回目も同様に行うと困ることはほとんどなく新聞が完成した。3回目は1・2回目とは違い「誰にあてて書くのか」「読んだ人にどうなってほしいのか」という2つの視点を設定して新聞づくりを行った。1・2回目の経験から今回も困ることなく取り組めると思ったが、こちらの声かけが「感想だけでなく事実を書こう」という言葉がけが適切でなかったために、新たに設けた2つの視点を子どもたちは意識しすぎてしまい構成シートの内容をただ「ことまど」に打つだけになってしまっていた。同じ新聞づくりでも内容は違ってくるので、最初に見本を示すなどしておく必要があった。

③ 高学年（6 学年）

- ・見出し、リード文、記事の構造などを復習してから記事を読んだことで、以前学習した新聞記事のつくりを思い出し、記事の内容を理解しやすくなった。内容を理解しやすくなったことが、もっといろいろな記事を探そう、気づいたことを学習カードにたくさん書こう、という主体的に新聞を読む姿へとつながったと思われる。多くの児童が、長い時間集中して記事

を読んだり、気づいたことを学習カードに書いたり、書かれている内容について友だちと話し合ったりする姿が見られた。また、「リード文から5W1Hについて読み取れた」というふり返りも多く、新聞記事に書いてあることを理解できたことに満足感を得られた児童も多かったことが伺われた。

- ・「ALTのノア先生に紹介したい日本文化」という視点が、記事に書かれた日本文化の良さについて考える手だてとして有効に働いた。S児は「移転10周年 感謝伝える花火」という丸子中央病院の記念花火の記事を取り上げ、アメリカなど外国と違う日本の花火の特徴や、花火で感謝の気持ちを表すことなど、記事からノア先生に伝えたいことを具体的に見つけることができた。Y児は「松本の忍者保存食 復刻」という記事から、「どんな味が気になる、食べてみたい。」「そばを熟成させることでリラックス効果がある」「忍者は兵糧丸という形態保存食を持っていた」など、外国の方に人気のある忍者の文化についておもしろさをたくさん見つけ出し、ノア先生に伝えたいことをまとめることができた。また、その学習カードを読んだK児が「わかりやすくノア先生に伝わりそうだったのでいいなと思った」と感想を書いていた。ノア先生という相手意識をもちながら友だちと共有ができた姿であった。
- ・今回の授業では、記事の読み取りに子どもの意識が集中してしまう場面が多々あった。「新聞記事を読めている」と子どもたちが手ごたえを感じている良さもあったが、その記事からノア先生にどんな日本文化の良さが伝わるか考える、という本時のねらいに迫ることが難しい姿もあった。子どもたちにとっての新聞記事をじっくり読むことが新鮮な活動であったことが、成果としても課題としても子どもたちの姿に表れていた。
- ・今後も様々な教科学習、特別活動、子どもたちの生活に関連した新聞記事を読み合ったり、教材に新聞記事を活用したりすることで、新聞をさらに身近に感じることができるようしていきたい。



(7) 成果と課題

①【児童】

新聞を授業の中で教材として使うことで、興味関心をもって新聞を広げて見たり、読んだりする姿が見られ、身近である新聞を用いること自体が、子どもたちにとって魅力ある活動になることがわかった。低学年では写真を探す、切り抜く、友だちに紹介するといった活動の中で、新聞のおもしろさを感じていく姿、中学年では書き方を考えることで伝えるための方法を学ぶ姿、高学年では記事を読んで考え伝えることで自分の見方や考えを広げていく姿が見られ、どの学年でも新聞を活用して意欲的に学ぶことができた。

②【職員】

2年間の研究の中で見えてきた、低学年「新聞に親しむ活動」、中学年「新聞を作る活動」、高学年「新聞を活用する活動」を、今後も教師の授業を創る上での手立ての一つとしての取り入れながら、子どもたちが意欲的に学べる授業を創っていきたい。